

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	重野, 寛(Shigeno, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2018
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.5, No.1 (2018. 3) ,p.4- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000005-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

重野 寛

慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター（DMC）所長
理工学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 5 号をお届けいたします。本号には、2017 年秋の DMC 研究センターシンポジウム第 7 回「デジタル知の文化的普及と深化に向けて——コンテクストネットワークの分散型ミュージアムへの展開」における講演やパネルディスカッションをはじめとして、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。

DMC 研究センターは、2010 年から現在のように活動してきましたが、2017 年 10 月に、初代センター長としてご指導いただいております松田隆美文学部教授より、センター長を引き継ぎました。皆様にはこれまで同様、DMC 研究センターの活動へのご支援とご協力をお願いする次第です。

さて、当センターが創設された目的のひとつに、慶應義塾が所蔵している様々な文化財を対象として新しいミュージアムの可能性を具体的に考えることがあります。DMC の研究の中核をなす MoSaIC プロジェクトやキャンパス・ミュージアムも、新しいミュージアムのあり方を常に念頭において進められてきました。今年度のシンポジウムでは、特に文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業で、DMC が担当しておりますプロジェクトの最終的な報告会を兼ねており、シンポジウムには外部評価者にもご参加いただきました。

当センターでは、これまでさまざまな文化資源を考える上で、その周辺あるいは背後にある物の関係性をコンテクストと呼び、このコンテクストによっていろいろな価値が見えてくるのではないかという議論をしてまいりました。今回のシンポジウムでは、さらにそれを推し進め、「コンテクストネットワーク」という新しいコンセプトを提案・議論しました。このような新しいコンセプトを議論するに当たり、今年度は慶應義塾大学アート・センター教授の渡部葉子先生から、「ミュージアムとコンテクスト」というタイトルでご講演をいただきました。また、当センター研究員の金子晋丈より、分散ミュージアム、それを実現する技術について講演いたしました。また、パネルディスカッション「コンテクストネットワークが実現するミュージアム世界」では、当センターが考えるミュージアムの在り方を皆様にお伝えするだけでなく、ともに考えていく機会に恵まれました。

『DMC 紀要』第 5 号を通じ、より多くの研究者、関係者の皆様へ新しいミュージアムのあり方をお伝えし、その検討を進める一助となりますと幸いです。